大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 27 週 (7 月 3 日~7 月 9 日)

今週のコメント ~ 手足口病 ~ 警報レベル超え続く。手洗いの励行と排泄物の適切な処理を

定点把握感染症

「手足口病 大幅な増加続く」

第 27 週は前週比 18.3%増の 4,804 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 11.0、5.7、2.9、1.5、0.7 である。

手足口病は前週より 67%増の 2,190 例と大幅な増加が続いており、南河内 16.7、大阪市北部 12.4、泉州 11.7 の順であった。大阪府内の全てのブロックで警報レベル開始基準値 5 を超えている。主に検出されているウイルスはコクサッキーウイルス A 6 である。

感染性胃腸炎は前週比 16%減の 1, 142 例で、南河内 11.4、中河内 9.2、北河内 6.6 の順であった。 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 4%減の 586 例で、三島 4.3、南河内 3.9、中河内 3.7 と続く。 ヘルパンギーナは 36%増の 308 例で、大阪市北部 3.4、泉州 1.9、豊能 1.7 である。

咽頭結膜熱は 4%減の 145 例で、大阪市南部 1.9、中河内 1.1、三島・大阪市北部 0.9 であった。

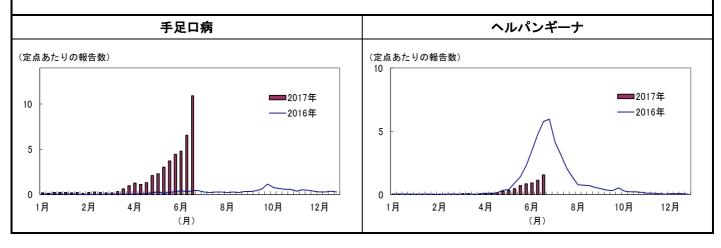


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017(平成 29)年 第 27 週 7 月 3 日-7 月 9 日)

第27週 の順位	第26週 の順位	感染症	2017 年 第 27 週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2016 年 第 27 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 27 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	手足口病	11	67%増	0.4	1 歳_34%
2	1	感染性胃腸炎	5.7	16%減	4.9	1 歳_15%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.9	4%減	2.6	5 歳_15%
4	4	ヘルパンギーナ	1.5	36%増	5.8	1 歳_33%
5	5	咽頭結膜熱	0.7	4%減	0.5	1 歳_22%

第27週のコメント

感染症の話(国立感染症研究所)

~侵襲性肺炎球菌感染症~ 第 27 週までの累積報告数は、過去 4 年間で最多です

全数把握感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症は、感染症法上、肺炎球菌 (週別報告数) (Streptococcus pneumoniae)による感染症のうち、 2017 16 この菌が髄液又は血液等の無菌部位から検出され た感染症のことをいう。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、 12 敗血症などが特に問題とされており、小児および高 10 齢者を中心に患者報告がある。抗菌薬が有効である が、近年薬剤耐性菌も多く報告されている。侵襲性 肺炎球菌感染症の予防にはワクチンの接種が有効 である。 (週) 感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 27週 7月3日-7月9日)

*)注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

Ir-					
1類感染症	報告はありません				
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません				
3類感染症	陽管出血性大陽菌感染症 3名 (北河内ブロック 1名、南河内ブロック 1名、 大阪市 1名、府内累積報告数 50名)				
4類感染症	レジオネラ症 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 29名)				
	カルパペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名				
	(泉州ブロック 1名、府内累積報告数 62名)				
5類感染症	急性脳炎 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 22名)				
(麻しん、風しんは除く)	後天性免疫不全症候群 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 96名)				
(体じん、風じんは味く)	侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (三島ブロック 1名、府内累積報告数 157名)				
	梅毒 6名 (中河内ブロック 1名、大阪市 5名、府内累積報告数 360名)				
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症 1名 (豊能ブロック 1名、府内累積報告数 16名)				
∥結核	 結核 新登録患者数:180 名 				
(2017年5月分)	(府内累積報告数 773名、内 肺・喀痰塗抹陽性 316名)				
麻しん、風しん	報告はありません				